

〈幼稚園教育〉

幼児が表現する楽しさを味わい、主体的に活動するための環境構成と援助の工夫 ～いろいろな素材を使った製作活動を通して～

南風原町立南風原幼稚園教諭 嘉数 正悟

I テーマ設定の理由

近年、少子化や核家族化、都市化、情報化などの社会の急激な変化に伴い、地域社会や家庭における子育て環境が変化している。また、平成27年度から「子ども子育て支援新制度」が実施されたことにより、質の高い幼児教育を提供することが一層求められている。中央教育審議会（平成28年12月）では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の一つに「感じたことや思い巡らしたりしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる」と示している。幼児期は、身近な周囲の環境にかかわり、直接的・具体的な体験を様々な表現することで感性や創造性などが豊かになっていく時期である。そのため、幼児が工夫したり考えたりしながら、イメージしたものを創り出していくための環境構成と援助の工夫が必要だと考える。

幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいの中に、「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」とあり、ねらいを達成するために指導する事項である内容のひとつに「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」とある。これは、幼児が表現する活動に取り組んでいく中で、いろいろな素材を遊びの中に取り込み、表現の素材とすることが必要であるととらえる。そして、一つの素材についていろいろな使い方をしたり、いろいろな素材で工夫して作ったりする中で、その素材の特性を知り、それを生かした使い方に気付いていくことができる。空き箱や食品のトレーなどの身近な素材や、木の枝や葉、木の実などの自然物など、いろいろな素材を使って製作活動を行うことで、身近な素材の特性や使い方を知ることができ、表現の幅が広がり、表現する楽しさを味わうことができると考える。また、幼児が主体性を発揮して活動を展開していくためには、教師主導の一方的な保育の展開ではなく、活動の主体である幼児の立場に立った保育の展開が必要であると考える。

これまでの保育実践では、製作活動を通して表現することを楽しめるように環境構成や援助を行ってきた。しかし、自分の思いやイメージをなかなか表現出来ずにいる幼児や、表現が深まらなかったり、広がらなかったりする幼児の姿があり、課題を感じていた。これは、環境構成が不十分で幼児にとってかかわりたくなる環境となっていなかったことや、教師主導の活動の展開になってしまっていたため、表現することを十分に楽しむことが出来ていなかったと考える。

そこで本研究では、幼児が表現する楽しさを味わい、主体的に活動するための環境構成と援助について研究を進めていきたい。そのために、いろいろな素材を使った製作活動を行うことで、幼児が素材の特性を知り、試行錯誤していく中で表現の幅が広がり、表現する楽しさを味わえるような環境構成と援助の工夫を行う。そして、表現する楽しさを繰り返し味わわせ、友達や教師など周りの人に認められることで、表現する意欲へつなげ主体的に活動するための環境構成と援助の工夫を探っていきたいと考え、本テーマを設定した。

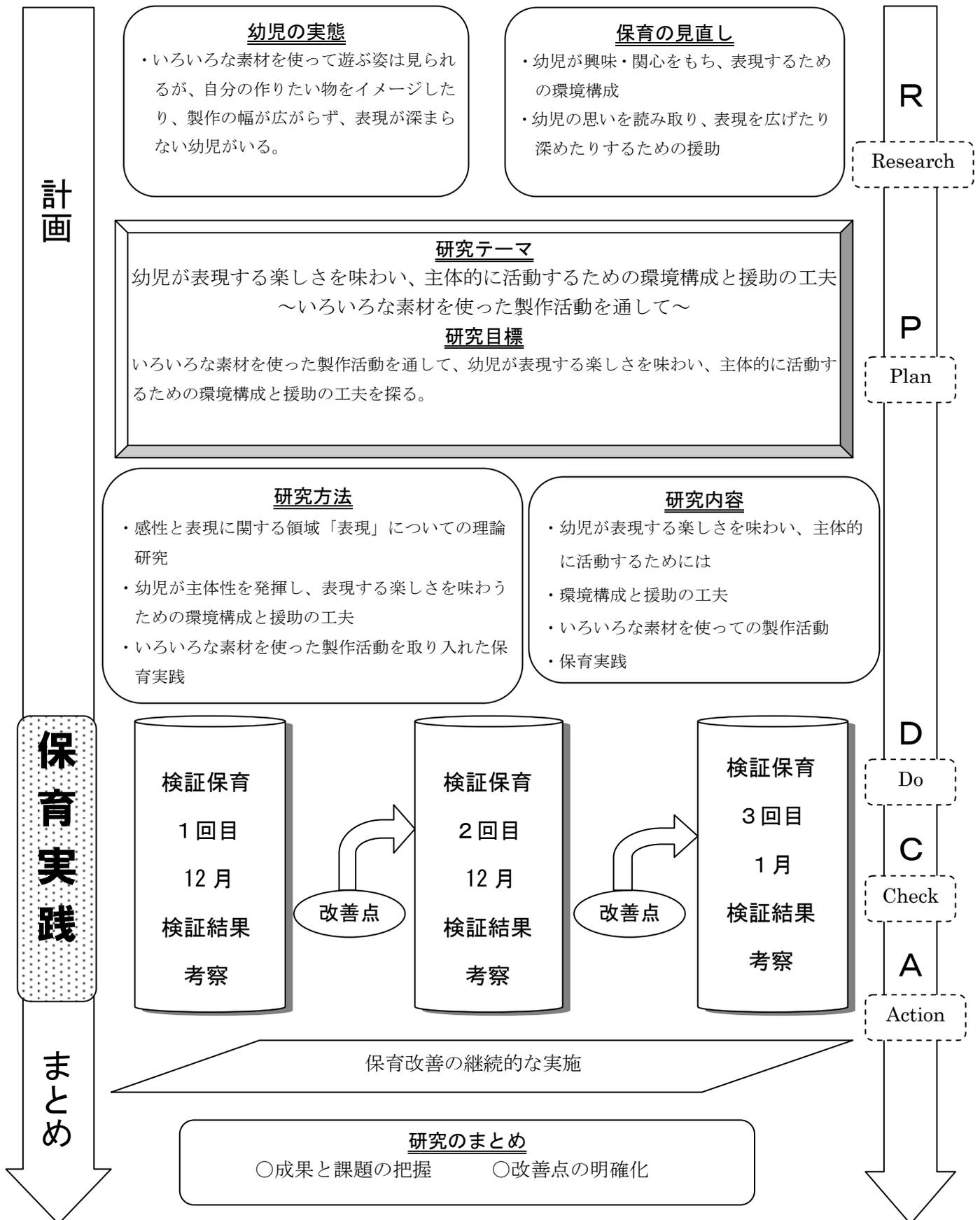
II 研究目標

いろいろな素材を使った製作活動を通して、幼児が表現する楽しさを味わい主体的に活動するための環境構成と援助の工夫を探る。

III 研究の方法

- 1 感性と表現に関する領域「表現」についての理論研究
- 2 幼児が主体性を発揮し、表現する楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫
- 3 いろいろな素材を使った製作活動を取り入れた保育実践

IV 研究の構想図



V 研究内容

1 幼児が表現する楽しさを味わい、主体的に活動するためには

(1) 表現とは

榎沢（2006）は表現について「内面（内的世界）を目に見える形にして外的世界にあらわすことである。すなわち、思ったり、感じたり、考えたりしたこと、これらは目に見えないものであるが、それらを誰も見ることのできる形にして提示することである」と述べている。幼児は生活の中で様々なことを感じ、心を動かしている。そのような心の動きを表現する経験を重ねることで、表現する力を養い、創造性を豊かにしていくと共に、充実感を得ている。また、自分の内面を表現することを楽しんだり、表現することで友達や周囲との関係が生まれることを楽しんだりもする。本研究では、幼児が表現しようとする意欲を受け止め、認めたり、時には一緒に考えたりしながら、幼児が様々な表現を楽しむことができるようにしていく。

(2) 主体的に活動するとは

榎沢（2006）は「自発的な遊びにおいて、子どもは主体的に生きることができるのである。そして、毎日の生活において、主体的に生きることが十分になされることにより、主体性がしだいに育まれていくのである」と述べている。つまり、毎日の生活の中で幼児が「何だろうか」「どうなっているのだろうか」「面白そう」というような興味・関心を抱き、自ら環境にかかわっていくことが必要である。そして、興味・関心を抱くような環境に幼児自らかかわり、興味・関心を存分に追求し満足感や充実感を得ることで、幼児の活動意欲を高め、主体的な態度が培われていくと考える。

図1は、幼児が自ら環境にかかわって活動する際の心の動きを表したものである。

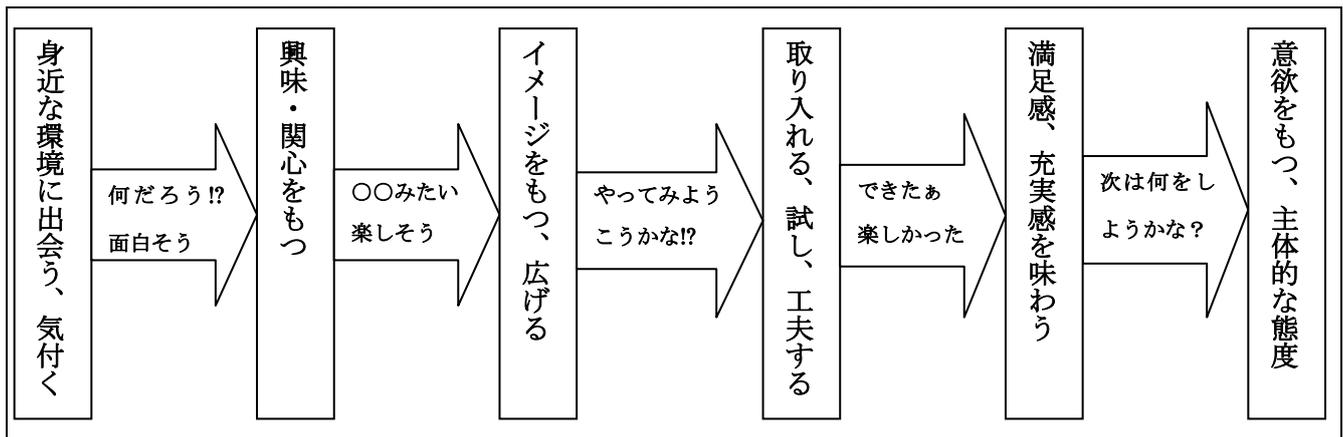


図1 活動する際の幼児の心の動き

2 環境構成と援助の工夫について

(1) 環境構成について

幼稚園教育要領第3章「一般的な留意事項」に「環境は、具体的なねらいを達成するために適切なものとなるように構成し、幼児が自らその環境にかかわることにより様々な活動を展開しつつ必要な体験を得られるようにすること」とある。また、幼稚園教育要領解説「幼児の主体的な活動と環境の構成」に「幼児が主体的に活動を行うことができるか否かは環境がどのように構成されているかによって大きく左右される」とある。つまり、教師は幼児が興味・関心をもち、思わずかかわりたくなるようなものや、人、事柄があり、意味のある体験をすることができるように適切に環境を構成することが必要である。また、環境を構成する際には、幼児一人一人の発達をとらえ、遊具や用具、素材などの様々な要素が遊びを通して幼児の発達にどう影響するのかを考えることを基本とするとしている。

(2) 教師の援助について

幼稚園教育要領第3章「一般的な留意事項」の中で「幼児の主体的な活動を促すためには、教師が多様な関わりをもつことが重要であることを踏まえ、教師は、理解者、共同作業者など様々な役

割を果たし、幼児の発達に必要な豊かな体験が得られるよう、活動の場面に応じて、適切な指導を行うようにすること。」と示されている。幼稚園教育において、教師の担う役割は重要であることを踏まえ、活動の理解者、共同作業、憧れを形成するモデル、援助を行う等の様々な役割を表1にまとめる。

表1 教師の役割と実際のかかわり

活動の理解者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児一人一人のこれまでの活動や頑張りを把握、理解する。 ・ 幼児が表現したものを認め、表現する過程も含めて褒める。
協同作業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の表現したいものを表現する方法を一緒に考える。 ・ 幼児と一緒に製作し、作品を使って一緒に遊びを楽しむ。
憧れを形成するモデル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師も一緒に表現しながら遊び、楽しむ。 ・ 幼児が「楽しそう」「やってみたい」と思えるような、きっかけとしての存在。
援助を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の状況に応じて、手伝ったり見守ったりするなどの必要な援助を行う。 ・ 幼児と一緒に遊んだり作ったりしていく中で、友達の表現の良さに気付き認められるような雰囲気作りをする。

3 いろいろな素材を使っての製作活動について

(1) いろいろな素材について

幼稚園教育要領の領域「表現」の内容(5)に「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」とあり、幼稚園教育要領解説に、「幼児は、思わぬものを遊びの中に取り込み、表現の素材とすることがある。また、例えば、木の枝や空き箱をいろいろに見立てたり、組み合わせを楽しんだりして、自分なりの表現の素材とすることもある」とある。幼児は、いろいろなものを工夫して作っていく中で、素材の特性を知り、それを生かした使い方に気付いていく。利用できる素材を用意することによって幼児がいろいろな素材に親しみ、表現を楽しむことができるのとらえる。また、作品が完成した時には、達成感が得られるとともに、遊びの中で使うことで作品に愛着を感じ、大事にしようとする気持ちが芽生える。いろいろな素材にかかわる多様な体験は、表現の幅を広げ、表現する意欲や想像力を育てる上で重要であると考えられる。

(2) 製作活動について

幼稚園教育要領解説に「幼児は、毎日の生活の中で、身近な周囲の環境とかかわりながら、そこに限りない不思議さや面白さなどを見付け（中略）感性と表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。」と示されている。幼児は、表現する活動の中で内面に蓄えられた様々な事象や情景を思い浮かべ想像の世界を楽しんでいる。製作活動で表現することで、幼児の表現が作品として残り、幼児が自分の行ったことを見て分かり、充実感や満足感を味わうことができる。また、作品を通して友達同士でイメージを伝え合ったり、共有したりするきっかけともなり友達や教師に自分の作品を受け止められ、認められることで満足感を得て、主体的に活動するようになる。

VI 研究の実際

1 検証保育（1回目12月1日） 「自分なりに工夫して製作を楽しむ」

(1) 設定理由

これまでの製作活動では、教師主導の活動の展開になってしまったり、環境構成が不十分だった。また、幼児が作りたいものを選んで作れる環境ではなかったり、自分なりに考え、工夫しながら製作活動に取り組める展開となっていなかった。

そこで、今回の検証保育では、いろいろな素材を用意し、幼児が自分なりに考え工夫しながら自

分が作りたいものを作るよう環境構成を行う。また、幼児が製作活動を行っていく中で、教師が幼児の製作した作品や、製作に取り組んでいる過程を認め、褒めることで幼児が表現する喜びを感じられるように援助の工夫をしていきたいと考え設定した。

(2) 保育のねらい

①いろいろな素材を使い、自分なりに工夫しながら製作を楽しむ。

(3) 検証のねらい

①幼児が自分なりに表現する楽しさを味わい、充実感を味わうための環境構成と援助の工夫を検証する。

(4) 検証の流れ

月日	保育のねらい	幼児の姿	○環境構成 △課題	★教師の援助 △課題
12月1日(金)	いろいろな素材を使い、自分なりに工夫しながら製作を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材の中から、自分の作りたい物をイメージしたり、使いたい素材からイメージしたりしながら製作活動に取り組んでいる。  <ul style="list-style-type: none"> ・幼児なりのこだわりをもって、試行錯誤しながら、ヘリコプターを製作している。  <ul style="list-style-type: none"> ・大きな段ボールに入り込んで遊ぶことで、友達同士でビックリ箱という共通のイメージをもっている。 	<p>○段ボールや空き箱、ラップの芯やトイレットペーパーの芯、毛糸、ペットボトルなど、いろいろな素材を用意した。</p> <p>○製作活動しながら、幼児と一緒に必要な素材を考え、新たに提示した。</p> <p>○幼児が、作ったものを友達や教師に伝えたり、他の幼児の作ったものを知ることでできる場を設定した。(振り返りタイムの設定)</p> <p>△幼児が製作したいものを作るための十分な素材を準備する。</p>	<p>★幼児の活動の様子を観察したり、会話をしながら幼児の思いを言葉で確認し、幼児の作っている作品や、作っている過程を認め、褒めた。</p> <p>★製作活動しながら、幼児と一緒に必要な素材を考えた。</p> <p>★振り返りタイムでは、幼児の表現したイメージを受け止め、認めたり褒めたりしながら、幼児が製作した作品のイメージを友達に伝えられるように言葉を添えながら援助した。</p> <p>△幼児が製作した作品のイメージを友達同士で互いに気付き、表現した思いを知るための言葉かけが不十分であった。</p>

(考察)

- ・製作したい作品を幼児が選んで作ったり、使いたい素材から製作するもののイメージをもって、それぞれ自分なりに考えたり工夫したりしながら製作活動を行うことが出来た。
- ・製作する様子を見守ったり、作っている作品への思いを言葉で確認したりする中で、製作している過程を認めたり褒めたりしたことで、製作活動を楽しみ、満足感を味わうことができた。
- ・振り返りタイムを設け、幼児の作品や、作品に対する思いを友達や教師に伝え、認められたことで、満足感や充実感を味わい次の活動意欲へとつながった。

(改善点)

- ・素材・教材の種類や数の準備が不十分であった。
- ・製作活動を行っていく中で、幼児が製作している作品や、作ろうとしてイメージしているものを友達に知らせたり、共有したりすることのできる援助の工夫が不十分であった。

2 検証保育（2回目 12月20日～22日） 「クリスマス飾ろう」

(1) 設定理由

前回の検証保育では、いろいろな素材を使い幼児が自分なりのイメージを形にして表現できるように環境構成や援助を行った。その結果、幼児が自分なりに考え、工夫しながら製作することを楽しんでいる姿が見られた。しかし、素材の種類や数、幼児が友達の作品や友達の表現したい思いに気付くための教師の援助が不十分であったため、思うように製作することができない幼児の姿があった。また、友達の作品や、友達が作ろうとしているもののイメージを知ったり共有したりするための援助に課題が残った。

12月に入り、幼稚園ではクリスマスを楽しみにしている会話が聞こえている。今回の検証保育では、幼児がクリスマスに対する自分のイメージを表現したり、友達とイメージを共有し一緒に表現したりしながら、互いの表現を認めあうことで表現する楽しさを味わえるように環境構成と援助の工夫をしたいと考え設定した。

(2) 保育のねらい

- ① いろいろな素材に触れ、自分のイメージを表現する。
- ② 自分で表現したり、友達の表現に触れたりして、様々な表現の仕方を知る。
- ③ 互いの表現を認め合いながら、表現する楽しさを味わう。
- ④ クリスマスツリーを飾る事を楽しみ、クリスマスの雰囲気を楽しむ。

(3) 検証のねらい

- ① 自分で表現したり、友達の表現に触れたりし、認め合うことで表現する楽しさを味わえるような環境構成と援助の工夫を検証する。
- ② 幼児が自分の思いを表現し、友達とイメージを共有し、一緒に表現をしながら互いの表現を認め合うための環境構成と援助の工夫を検証する。

(4) 検証の流れ

月日	保育のねらい	幼児の姿	○環境構成 △課題	★教師の援助 △課題
12月20日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材に触れ、自分のイメージを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスリース作りでは、自分の好きな色のカラービニールを組み合わせて、リース作りに取り組んでいる。  ・ミニツリー作りでは、松ぼっくりに、好きな色のビーズを付けて、自分だけのミニツリーを作っている。また、「雪も降ってる」と、綿を使い自分なりにイメージを広げている。  ・友達に作り方を聞いたり、教えてもらったりしながらリースやミニツリーを製作している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児が好きな色を組み合わせてクリスマスリースを作れるように、いろいろな色のカラービニールを用意した。 ○松ぼっくりのミニツリー作りでは、事前の幼児との会話の中から、ツリーのイメージを聞き、銀色をつけた松ぼっくりと、色のついた松ぼっくりを用意した。 ○傘型のミニツリー用のペットボトルのキャップ、紙粘土やストロー、カラーケントを用意した。  	<ul style="list-style-type: none"> ★教師も一緒に作りながら、一人で作ることが難しい幼児には、友達と協力して作るように言葉をかけ、必要に応じて援助を行った。 ★松ぼっくりのミニツリーを作っている幼児と会話をしながら、ツリーに対するイメージを引き出していく。幼児の「雪」という言葉から、白い素材をいくつか提示し、幼児のイメージに合う素材を選ばせた。 △三つ編みや、ビーズでの飾りなど、幼児の製作の援助が多くなってしまい、幼児の思いを聞いたり、周りの友達に伝えたりする教師の言葉かけが不十分であった。

<p>12月21日(木)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分で表現したり友達の表現に触れたりして様々な表現の仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> クリスマスツリー作りでは、ちぎったカラーケントを、幼児なりにおぼけや動物などに見立て、友達と会話を楽しみながら製作をしている。  <ul style="list-style-type: none"> オーナメント作りでは、「どうやって作ったの?」と友達の作品に興味をもち、教えてもらいながら自分なりの作品を製作している。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな段ボール、緑のカラーケントを用意し、保育室に置いておいた。 自分なりの表現ができるように、いろいろな素材を用意し取り組む時間を確保した。 <p>△教師のイメージの中だけでの素材の準備になってしまい、幼児のイメージを十分に表現できるような環境構成が不十分であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★幼児と一緒にツリーを作りながら、ツリーに対するイメージを聞いていく。 ★一人一人の作った作品や、製作する過程を認めたり、必要に応じて手伝ったりする。
<p>12月22日(金)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 互いの表現を認め合いながら、表現する楽しさを味わう。 クリスマスツリーを飾る事を楽しみクリスマスの雰囲気を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ツリーを飾り付けながら、一番上の星が無い事に気付き、段ボールや折り紙で星を作っている。 完成したツリーに、幼児が製作したオーナメントを飾り付け、全員で作上げたことで、「おお～、出来たあ」と歓声が上がり、出来上がった喜びを全員で味わっている。  <ul style="list-style-type: none"> ツリーを囲んでみんなで踊る中で、幼児の嬉しそうな笑顔や楽しそうに踊る姿が見られる。(ジングルベル、サンタが町にやってきました) 	<ul style="list-style-type: none"> 段ボールや画用紙、折り紙など、星を作るのに使えるような素材を準備した。 全員で大きな円を作り、その中心に完成したツリーを置き、全員からよく見えるようにした。  <p>△オーナメントをツリーへ飾るために、たこ糸を使ったが、糸が細く幼児にとって扱いが難しく、飾る作業に時間がかかってしまった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★幼児の気付きに共感し認めながら、星を作るために必要な素材を聞いたりして一緒に考える。 ★幼児と一緒に、ツリーが完成した喜びを共感し、幼児の頑張りを認め褒めた。 
<p>(考察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が作りたいものを製作できるように、いろいろな素材を用意したことで幼児が自分のイメージを表現したり、作りたいもののイメージを友達と共有したりしながら製作活動を楽しむことへとつながった。 ・製作活動を進めていく中で、必要な素材や試したい素材を幼児との会話の中で考えられるように言葉をかけることで、幼児が友達と一緒に考えたり、使い方を試したりしながら製作を進め、達成感を味わわせることができた。 ・友達と協力したり、教えあったりする機会を作ったことで、幼児が自分以外の作品にも触れる機会になり、友達同士が認め合うことの出来る場になった。 				
<p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のイメージだけで素材を準備するのではなく、幼児が様々なイメージを表現できるような素材を用意しておく。 ・幼児が満足感や充実感を味わうため、製作している過程をできるだけ具体的な言葉で褒める。 ・素材を準備する際に、幼児にとって扱いやすい物であるか、少し援助が必要な物であるのかを精査して準備をする。 				

3 検証保育 (3回目 1月24日～26日) 「正月遊びのおもちゃを作ろう」

(1) 設定理由

前回の検証保育では、幼児が興味・関心をもっているクリスマスツリーやオーナメント作りを行い、幼児なりに考えながら製作をしている姿や工夫している様子、製作し表現することを楽しんでいる姿が見られた。しかし、リース作りの三つ編みや、オーナメントを飾るためのたこ糸など、幼児にとって扱いにくい素材があったため、教師の細かい援助や、飾るまでに時間がかかりすぎてしまい、遊びの流れが途切れてしまったという課題が残った。今回の検証保育では、遊びの流れが途切れないようにするため、幼児が自分で切ったり丸めたりするなどのことができる扱いやすい素材を用意する。

新年を迎え、幼稚園でもこま回しやすごろく、けん玉や羽子板などの正月遊びを楽しんでいる幼児の姿が見られる。いろいろな素材を使って、幼児が試行錯誤しながら正月遊びのおもちゃを作り、更に、完成した作品で遊んだり友達や教師に紹介したりする中で、認められたり褒められたりし、幼児が表現する楽しさを味わい主体的に活動するための環境構成と援助の工夫をしていきたいと考え、設定した。

(2) 保育のねらい

- ①自分なりに試行錯誤しながら、正月遊びのおもちゃ作りを楽しむ。
- ②友達と教え合ったり、力を合わせたりしながら製作することを楽しむ。
- ③製作した作品を使い、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- ④遊びを楽しむ中で、もっと良い作品にするために試行錯誤する。

(3) 検証のねらい

- ①幼児一人一人が自分の作りたい物を製作し、表現する事を楽しめるような環境構成と援助の工夫を検証する。
- ②友達の表現に気付き、認め合う事で満足感や充実感を味わい、次の活動意欲へとつなげるための環境構成と援助の工夫を検証する。

(4) 検証の流れ

月日	保育のねらい	幼児の姿	○環境構成	★教師の援助
1月24日(水)	・自分なりに試行錯誤しながら、正月遊びのおもちゃ作りを楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に数人ずつでグループになり、すごろくを作り始める。 ・友達と相談しながら、すごろくのマスや「いっかいやすみ」などの言葉を書いている。 ・進むマス以外の白い部分に、絵を描いている。友達と会話をしながらイメージを共有し、「幼稚園すごろく」「白雪姫すごろく」などを作っている。 ・手回しこまのコーナーでは、作ったこまを回そうと試行錯誤する幼児や、こまをいくつも作っている幼児がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○すごろく、手回しこま、羽子板の正月遊びのおもちゃ製作コーナーを設けた。 ○模造紙を友達と囲んで取り組めるように、すごろく作りコーナーのスペースを大きく確保した。  <ul style="list-style-type: none"> ○手回しこまコーナーには段ボールや厚紙を用意した。 	<ul style="list-style-type: none"> ★すごろく作りのコーナーでは、スタートとゴールの位置や道順を幼児同士で話して決められるように「すごろくって、最初はどこから始まるかな？」などの言葉をかける。「この白い所は何か使う?」と、マスや道以外の白紙部分にも気付かせるよう言葉をかける。 ★手回しこまコーナーでは、一緒に作って回したり、上手く回る作り方や回し方を幼児と一緒に考えたりした。

<p>1月25日(木)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と教え合ったり、力を合わせたりしながら製作することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作ったこまを回し、上手く回るこまと回らないこまの違いを比べたり、回し方を考えたりしている。 ・作ったすごろくを使って遊ぶ中で、気付いた事を友達と共有し一緒に考えながら直している。 ・作ったおもちゃを使って遊んだり、遊んでいる友達に作り方を聞いたりしながら、新しいものを自分で作っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手作りこまコーナーで、厚紙を円く切った見本を提示し、段ボール以外でも作れる事に気付けるようにした。 ○必要な素材や教材を幼児と確認しながら用意し、提示した。 ○作り終えた幼児が遊べるように、スペースを確保しておいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ★厚紙でのコマの作り方を教えながら、上手く回るこまを作るにはどうしたら良いか、一緒に考えていった。 ★幼児の気付きに共感し認めながら、もっと良いものにするためには、どうしたら良いか一緒に考えた。 ★幼児が作った作品で一緒に遊びながら、作品を認める言葉をかけたり、幼児の頑張りを友達に伝えて気付かせたりしていった。
<p>1月26日(金)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・製作した作品を使い、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・遊びを楽しむ中で、もっと良い作品にするために試行錯誤する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作したおもちゃで友達と一緒に遊んだり、新しく作ったおもちゃで遊んでいた。 ・手作りけん玉で遊んでいる友達を見て、「自分も作りたい」と作り始めていた。 ・手回しゴマに興味があるが、回す場所が分からず困っている幼児もいた。 ・友達と一緒に羽子板作りをし、アイデアを出したり、褒めたりしながら製作をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作ったおもちゃで遊べるスペースを確保しておく。  <ul style="list-style-type: none"> ○手回しゴマを回す場所をビニールテープで囲み、分かりやすいようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ★「何で作る!？」と、素材選びから幼児が行えるようにし、自分の力で最後まで作れるようにした。 ★手回しごまに必要な素材を幼児と一緒に考え、「どうやったら上手く回りそう?」と言葉をかけ、幼児なりのアイデアを引き出していった。 ★製作した羽子板を認めながら、「可愛い羽子板ができそうだね」と言葉をかけ、幼児なりの飾りのアイデアを引き出していった。
<p>(考察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が、自分で切ったり丸めたりするなどの扱いやすい素材を用意したことで、自分の作りたいものを、それぞれの幼児が自分で試したり、考えたりしながら製作に取り組むことができた。 ・製作活動をする中で、必要な素材を幼児と一緒に考え、新たに用意することで幼児の作りたいものが、より具現化し製作する喜びや、完成した達成感を味わう事へとつながった。 ・幼児の作品や、作品に対する思いが友達や教師に認められることで、自信へとつながり、「もっと作りたい」「次は、これを作る」という次の活動意欲へとつながった。 				
<p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一日目の朝の集まりの時に、先に模造紙を提示してしまったことで、「すごろくを作る」と幼児が意識してしまい、教師主導になった。活動を始める時に話す内容や言葉、新たな素材を使う時に提示の仕方を改善する必要がある。 ・幼児が、製作活動で作った作品を紹介するための場の工夫が必要である。 ・幼児が、充実感や達成感を更に味わうことの出来るように「振り返りタイム」の改善をしていく。 				

4 検証保育（本時）の展開 (1) 本時の日案

日 案	南風原町立南風原幼稚園 平成30年11月26日(金) 1組 男児16名 女児13名 計29名 担任 轟敏正 担任 轟敏正
<p>・前日に作ったすごろくや羽子板を使って遊び、遊びの中で気付いた事を友達同士で話し合い、遊びがうまくいくように考え協力しながら改良している。</p> <p>・自分の作りたい物を薬笥の中から選び、紙コップでけん玉を作ったり厚紙で羽子板を作り、絵を描いて自分のイメージ表現している。</p> <p>・自分の作った物を、友達の前で「〇〇作りました」と紹介したり、実際に使って取っ替わりして楽しそうにしている。</p>	<p>ねら い</p> <p>・製作した作品を使い、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・すごろくや、けん玉、こま回しなどで楽しく遊んだり、自分の思いを友達に伝えたりする。 ・〇遊びを楽しむ中で、もっと良い作品にするために試行錯誤する。 ・遊びながら「ここをこうしよう」と気付いた所を、自分なりに工夫し改善していく。</p>
<p>● 園児の健康状態を確認しながら、一日を元気に過ごせるように言葉かけをする。</p> <p>● 幼児と一緒に今日の予定を確認しながら、昨日までの取り組んで来た姿を認める言葉かけ、今日の活動への意欲を高める。</p>	<p>● 幼児の健康状態を確認しながら、一日を元気に過ごせるように言葉かけをする。</p> <p>● 幼児と一緒に今日の予定を確認しながら、昨日までの取り組んで来た姿を認める言葉かけ、今日の活動への意欲を高める。</p>
<p>● 朝の集まりに参加する。</p> <p>● 室内で遊ぶ (すごろく、手回しこま、ビュンビュンこま、けん玉、羽子板)</p> <p>● 室内で遊ぶ (すごろく、手回しこま、ビュンビュンこま、けん玉、羽子板)</p> <p>● すごろく、手回しこま、けん玉、羽子板</p> <p>● 室内で遊ぶ (すごろく、手回しこま、けん玉、羽子板)</p> <p>● すごろく、手回しこま、けん玉、羽子板</p> <p>● 室内で遊ぶ (すごろく、手回しこま、けん玉、羽子板)</p>	<p>● 自分で試したり、友達の考えに触れながら回るこまを作り、充実感・達成感を味わう</p> <p>● 〇教師と一緒に遊びながら、どうしたらうまく回るのが気付かせられるような言葉かけをする。工夫するための環境を整える</p>
<p>● 今日振り返りをする。</p> <p>● 遊んだり作ったりした感想などをみんなに伝える。</p>	<p>● 遊びの中で気付いた事を、どんな試して欲しい。 ● 〇どうやったら続けられるか、相手の事も考えながら遊べるかな。 ● 〇一緒に遊びながら、羽根つきの楽しさや続けど更に楽しい事を伝えていく。</p>
<p>● 環境構成</p> <p>● 教師の援助</p>	<p>● 環境構成</p> <p>● 教師の援助</p>
<p>● 予想される幼児の遊びの展開</p>	<p>● 育てたい姿</p>
<p>7:30</p> <p>8:30</p> <p>9:00</p> <p>9:40</p>	<p>● 育てたい姿</p> <p>● 育てたい姿</p> <p>● 育てたい姿</p> <p>● 育てたい姿</p>

5 個別の変容

いろいろな素材を使った製作活動を通して保育実践を重ねる中で、幼児が製作する楽しさを味わい、主体的に活動する姿において、特に変容のあった幼児の様子について下記にまとめる。

	A児	B児	C児
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">検証前</div> 幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・製作活動を行う時に、自ら作りたいものを製作する姿が見られなかった。 ・製作する作品に自信が持てず、友達や教師に紹介している姿が見られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のもっているイメージを自ら進んで表現する姿が少なかった。 ・友達と一緒に製作を行い、作った仲間だけでイメージを共有することが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作を含め、いろいろな事が上手であるが、自分の作品を友達や教師に見せて説明したり、全体の場で発表したりする事に消極的であった。
★ ○ 環境 構成 教師 の 援助	<ul style="list-style-type: none"> ・会話をしながら少しずつ思いを引き出し、表現出来るように援助しながら一緒に製作活動を行っていった。 ・作品だけでなく、作っている過程の頑張りも認め、自信をもてるように援助を行っていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材を用意して様々な表現活動が出来るように環境構成を行っていった。また、会話をしながら作品のイメージを聞き、素材について相談や提案をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作している様子を見守り、C児の工夫している所を確認したり読み取ったりしながら、周りの友達に伝え、認められる場を作るようにしていった。(振り返りタイムでの発表)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">検証後</div> 事後 の 変容	<ul style="list-style-type: none"> ・「これを作りたい」というイメージをもち、自ら製作に取り組む姿が見られるようになった。 ・作りながら「○○作ってる」と話したり、出来上がった作品を嬉しそうに「出来たよ」と、教えてくれるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の製作したい物を、試しながら作ろうとするようになった。製作しながら友達に「○○を使ってみよう」と提案したり、教師に「○○が欲しい」と要求したりするようになった。 ・全体の場でも友達と一緒に、自分の作品を紹介するようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの作りたい物を工夫しながら製作し、作りながら友達や教師に製作物について話をするようになった。また、振り返りタイムでも自ら発表する事が出来るようになった。
《考察》 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が表現する楽しさを味わい、その表現を周りの友達や教師に認められたことで、次の活動意欲につながった。 ・いろいろな素材を用意したことで、幼児の製作の幅が広がり、製作する中で「どの素材を使って作ろうか」「この素材を使って何を作ろうか」と、幼児なりに考え、試したり工夫したりする姿が増えた。 ・製作することが苦手であった幼児には、会話をしながら少しずつ思いを確認し、製作するものや素材を提示しながら一緒に製作活動を行っていったことで、少しずつ自ら作りたいものを製作することが出来るようになった。 ・教師が幼児と一緒に製作活動をする中で、幼児が製作したいものについて会話をしながら確認し、製作している過程を認めたり、褒めたりしてきた。表現する過程を教師に認められたり、褒められたりすることで、少しずつ自信につながり、自分の作品や製作しているものを友達や教師に自ら伝えられるようになった。 ・振り返りタイムで、製作した作品や、作品に対する思いを自分の言葉で伝え、友達や教師に認められる経験をしたことで、充実感や満足感を味わい、次の活動意欲へとつながった。 			

Ⅶ 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 幼児が表現する楽しさを味わうことが出来るように、いろいろな素材を準備したことで、幼児が自分なりに考えたり試したり、友達と相談したりしながら、主体的に製作活動を行うことができた。
- (2) 幼児の作品や、製作している過程を認める言葉をかけることで、幼児が満足感や充実感を味わい次の活動意欲へとつながった。
- (3) 振り返りタイムで、作品の紹介や、作品に対する思いを発表してもらったことで、友達の思いを知り、認め合うことができる場を作ることができた。
- (4) 友達に作品を認められたことで、充実感や満足感を味わうことができ、自信へつながった。
- (5) 友達に認められたり、教師に褒められたりしたことで、活動意欲へつながり、幼稚園生活に主体的に取り組む姿が見られるようになった。

2 今後の課題

- (1) 幼児が自ら表現し、表現する楽しさを味わうためには、事前準備・環境構成の工夫、改善が必要である。
- (2) 製作活動をしていく中で、教師が幼児の心に寄り添った援助ができるように、幼児の姿の読み取りや会話の中での言葉から、行っていく援助の見直し・改善が必要である。
- (3) 幼児が主体性を更に発揮できるようにするため、振り返りタイムでの言葉かけを改善していきたい。

〈主な参考文献〉

文部科学省	『中央教育審議会』		2016年
辻泰秀 編著	『幼児造形の研究』	萌文書林	2014年
榎沢良彦 編著	『保育内容・表現』	同文書院	2012年
文部科学省	『幼稚園教育要領』	文部科学省	2008年
文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
神長美津子 編著	『計画的な環境の構成』	チャイルド本社	2000年
柴崎正行 編著	『保育実践から学ぶ環境づくりと援助の方法』	ひかりのくに	1997年